

～ IOT 介護ロボット開発による軽度認知障害への取り組み ～

<目的> 認知症の前段階である軽度認知障害(MCI)は可逆的であり、この段階で認知症への進行を予防する事が重要である。

<方法> 記憶は原皮質と密接な関係にあり又、認知症への進行は記憶の時間的分類と関係が深い。軽度認知障害(MCI)は近時記憶の障害とされており、我々はIoT介護ロボット(ケアアシストサイネージ)を開発。タッチパネル式音声合成により対話が可能。ここに示す記憶回路を活性化する近時記憶トレーニング出来る様プログラミングされている。

<結果> 従来の認知運動療法とIoT介護ロボット(ケアアシストサイネージ)近時記憶トレーニングを組み合わせる事により認知機能の改善に良好な結果を得ている。

<考察> 現代、認知症進行を抑える治療薬の開発は困難な状況にあり、可逆的である軽度認知障害(MCI)の段階で予防する事が重要である。我々が開発したIoT介護ロボット(ケアアシストサイネージ)近時記憶トレーニングにより記憶回路を活性化する事は認知症への進行予防に有効であると思われた。

<ケアアシストサイネージ操作時の画面(物忘れチェック項目)>



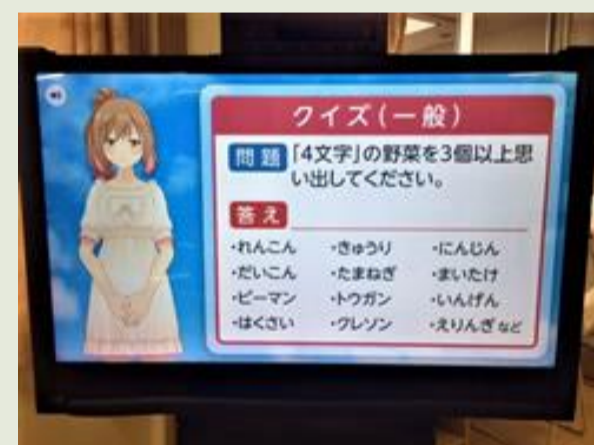
↑ トップ画面 (項目を選びます)



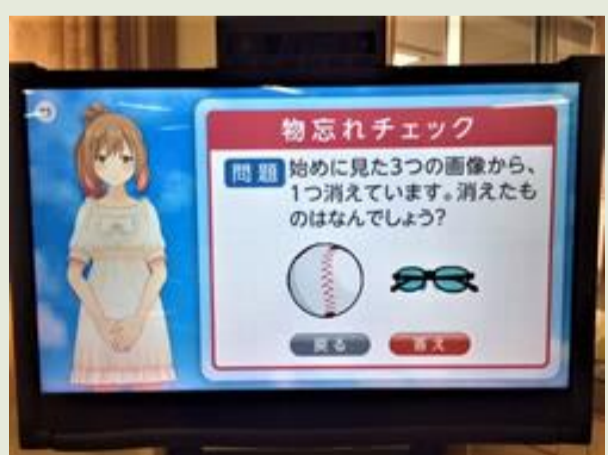
↑ ①表示された物を覚えます



↑ ②クイズが出題されます



↑ ③解答



↑ ④消えた物は何か出題されます



↑ ⑤解答

以上が、済生会学会総会にて発表した内容を載せております。